

令和6年度募集

進路説明会要項

令和5年11月 1日（水）
（14:50～15:40 体育館）

次 第

- 1 校長あいさつ
- 2 進路説明
- 3 諸連絡



長久手市立長久手中学校

目 次

	ページ数
1 進路・生き方の選択について	1
2 就職を希望する場合	1
3 専修学校を希望する場合	2
4 私立高等学校（全日制課程）を希望する場合	4
5 公立（県立・市立）高等学校を希望する場合	7
6 国立学校を希望する場合	1 2
7 愛知県外の学校を受験する場合	1 2
8 その他の学校を受験する場合	1 2
9 その他	1 3
10 最後に	1 4

巻末資料

- 資料 1 【公立】 令和 6 年度愛知 Web 出願について
- 資料 2 【公立】 推薦選抜における特別検査について
- 資料 3 【公立】 一般選抜における特別検査について
- 資料 4 【公立】 通学区域並びに群及びグループ分けについて
- 資料 5 【公立】 特色選抜について
- 資料 6 【公立】 一般選抜における面接の有無と校内順位の決定方式
- 資料 7 【公立】 推薦選抜実施要項（例・瀬戸西）
- 資料 8 【公立】 特色選抜実施要項（例・瀬戸西）
- 資料 9 【公立】 定時制課程及び通信制課程の入学者選抜について
- 資料 10 【公立】 障害、病気及び事故にかかる特別措置
- 資料 11 【国立】 愛知県内の国立学校の入試の概要
- 資料 12 【私立】 令和 6 年私立高等学校一般入試日程
- 資料 13 【専修】 令和 6 年専修学校一般入試日程
- 資料 14 【私立】 令和 6 年度入試に係る愛知県私立高等学校募集要項
- 資料 15 【専修】 令和 6 年度 愛知県専修学校高等課程募集要項
- 資料 16 【私立】 私立高校の学納金・・・父母負担の軽減
- 資料 17 今後の進路日程について

1 進路・生き方の選択について

- (1) 働く人に学ぶ会、職場体験等を通して勤労観・職業観を身に付けてきた。
- (2) 上級学校を学ぶ会、上級学校見学等を通して、上級学校の特色や様子を調べてきた。
- (3) (1)(2)を生かしながら、本人の将来の夢や目標を明確にしたり、家庭の状況や本人の性格・特性に合わせてたりすることで、進路の選択・決定を行う時期が迫っている。

2 就職を希望する場合

- (1) 求人状況
 - ・ 求人は減っており、希望する職業に就きにくい。
 - ・ 就職希望者は、すぐに学級担任に伝える。
 - ・ 中卒対象者の一斉選考が進学試験の前にあるため、「不合格だったら就職を・・・」という考え方は、成り立たない。
- (2) 就職先決定までの手順
 - ① 職業適性検査
 - ② 就職希望先の選択
 - さまざまな条件を考慮して、本人・保護者で選択する。
 - (勤務内容・時間、給料、休日、交通費の支給、定時制高等学校等への通学の可否等)
 - ③ 職業紹介相談会
 - ハローワーク職員、本人、保護者、学級担任で希望先を検討・決定する。
 - ④ 職場見学
 - 本人＋学級担任または保護者で希望先を訪問し、職場を見学する。
 - ⑤ 就職選考（就職試験）
 - 令和6年1月26日（金）に、県下一斉に実施される。
- (3) 働きながら学ぶには（高卒の資格を取る）→ 職場の条件を考慮して
 - ・ 定時制高等学校
 - ・ 通信制高等学校
 - ・ 企業内学園（トヨタ工業学園・デンソー工業学園工業高校課程）
 - ・ 自衛隊高等工科学校（国家公務員）
- (4) 働くための技術や資格を取得するには（高卒の資格は取れない）
 - 公共職業能力開発施設（名古屋高等技術専門校）

3 専修学校を希望する場合

(1) 募集

- ・ ほとんどの学校で、推薦入試と一般入試による募集がある。
- ・ 推薦入試合格者は、専修・私立・公立・国立を問わず他校を受験できない。

(2) 選抜方法

① 推薦入試

a 校内審査

- ・ 11月 8日（水）推薦依頼書配付開始（相談会で配付）
- ・ 11月30日（木）推薦依頼書提出〆切
- ・ 12月 4日（月）推薦委員会（出願資格審査、校長推薦）
- ・ 2学期の個人懇談会〔12月5日（火）～8日（金）〕で推薦委員会の結果を伝える。

b 出願

- ・ 推薦出願資格（推薦条件）は、次の通りである。

- ①第1志望であること。合格したら必ずその学校に入学すること。
- ②本人からの申し出があること。
- ③生徒と保護者ともに、その学校への入学を強く希望していること。
- ④3年間やり抜く強い意志と資質が認められること。
- ⑤当該学科を志望する動機、理由が明白、適切であること。
- ⑥当該学科に対する適性及び興味、関心を有すること。
- ⑦長久手中学校のきまりがきちんと守れていること。
- ⑧校内での手続を経た上で、学校長が推薦を認めること。
- ⑨入学後にその学校の授業についていける学力を備えていること。

- ・ 出願期間は、令和6年1月10日（水）から各校が指定した期日まで。
- ・ 検定料は、各専修学校で異なる。（銀行等で納付する場合が多い。）

c 入学試験

- ・ すべての専修学校で令和6年1月16日（火）に実施する。
（私立高等学校の推薦入試日と同日）

d 選考方法

- ・ 入学試験の方法は各専修学校によって異なる。
- ・ 面接試験は、人物を見るために必ず行われ、重視する学校が多い。

e 合格発表・入学手続き

- ・ 合格発表は1月17日（水）18日（木）に行われる。
- ・ 入学手続きは、指定された期日までに納付金を納めることから始まる。

☆ c～eに関しては、専修学校ごとに異なるため、募集要項で確認する。

②一般入試

a 受験校決定

- ・ 2学期の個人懇談会〔12月5日（火）～8日（金）〕で受験校を決定する。
- ・ 組み合わせ次第で、複数校受験することが可能である【資料13】（私立・公立・国立高校との併願も可能である。）

b 出願

- ・ 出願期間は、1月12日（金）から各校が指定した期日まで。
- ・ 検定料は、各専修学校で異なる。（銀行等で納付する場合が多い。）

c 入学試験

- ・ 各専修学校が独自に定めるが、1月23日（火）・24日（水）・25日（木）の実施が多い。（多くの学校が私立高等学校の一般入試日と同じ。）

d 選考方法

- ・ 入学試験の方法は各専修学校によって異なる。
- ・ 面接試験は、人物を見るために行われ、重視していることが多い。

e 合格発表・入学手続き

- ・ 合格発表は1月24日（水）～26日（金）に多くの学校で行われる。
- ・ 入学手続きは、指定された期日までに納付金（一時金）を納めることから始まる。

☆ c～eに関しては、学校ごとに異なるため、募集要項で確認する必要がある。

☆ 学校ごとに特色のある入試制度があるので、募集要項で確認する必要がある。

4 私立高等学校（全日制課程）を希望する場合

（1）募集

- ・ ほとんどの学校で、推薦入試と一般入試による募集がある。
- ・ 一部の学校で、特色入試による募集がある。（募集人数は若干名）
- ・ 多くの学校で、推薦入試で募集する人数の方が多い。
- ・ 推薦入試合格者は、専修・私立・公立・国立を問わず他校を受験できない。
(特色入試もそれに準ずる)

（2）選抜方法

①推薦入試

a 校内審査

- ・ 11月 8日（水）推薦依頼書配付開始（相談会で配付）
- ・ 11月30日（木）推薦依頼書提出〆切
- ・ 12月 4日（月）推薦委員会（出願資格審査、校長推薦）
- ・ 2学期の個人懇談会〔12月5日（火）～8日（金）〕で推薦委員会の結果を伝える。

b 出願

- ・ 推薦出願資格（推薦条件）は、次の通りである。

- ①第1志望であること。合格したら必ずその学校に入学すること。
- ②本人からの申し出があること。
- ③生徒と保護者ともに、その学校への入学を強く希望していること。
- ④3年間やり抜く強い意志と資質が認められること。
- ⑤当該学科を志望する動機、理由が明白、適切であること。
- ⑥当該学科に対する適性及び興味、関心を有すること。
- ⑦長久手中学校のきまりがきちんと守れていること。
- ⑧校内での手続を経た上で、学校長が推薦を認めること。
- ⑨入学後にその学校の授業についていける学力を備えていること。

- ・ 出願期間は、1月10日（水）から1月12日（金）まで。
- ・ 検定料は、各私立高等学校で異なる。（銀行等で納付する場合が多い。）

c 入学試験

- ・ すべての学校で1月16日（火）に実施する。
(専修学校の推薦入試日と同日)

d 選考方法

- ・ 入学試験の方法は学校ごとに異なる。
- ・ ほとんどの学校は面接試験と国・数・英の筆記試験

e 合格発表・入学手続き

- ・ 合格発表は1月17日（水）18（木）に行われる。
- ・ 入学手続きは、指定された期日までに納付金を納めることから始まる。

☆ c～eに関しては、学校ごとに異なるため、募集要項で確認する必要がある。

②特色入試

a 受験校決定

- ・ 2学期の個人懇談会〔12月5日（火）～8日（金）〕で受験校を決定する。

※ 学校によっては、事前にエントリーシートを提出する必要があるったり、事前審査があったりするので注意。その場合は、その期日に間に合うように受験校を決めなければならない。

※ それぞれの学校で出願資格が定められているので、募集要項で確認した上で、受験校を決める。

b 出願

- ・ 出願期間は、1月10日（水）から1月12日（金）まで。
- ・ 検定料や支払い方法は、各私立高等学校で異なる。

c 入学試験

- ・ すべての私立高等学校で1月16日（火）に実施する。
(私立高等学校・専修学校の推薦入試日と同日。)

d 選考方法

- ・ 入学試験の方法は各私立高等学校によって異なる。

e 合格発表・入学手続き

- ・ 合格発表は1月17日（水）18日（木）に行われる。
- ・ 入学手続きは、指定された期日までに納付金を納めることから始まる。

☆ c～eに関しては、学校ごとに異なるため、募集要項で確認する必要がある。

③一般入試

a 受験校決定

- ・ 2学期の個人懇談会〔12月5日（火）～8日（金）〕で受験校を決定する。

※ 科、コース、転科、転コースの希望など、受験校だけでなく、細かいところまで決める必要がある。

- ・ 組み合わせ次第で、複数校受験することが可能である【資料14】
(専修・公立・国立高校との併願も可能である。)

※ A方式、専願など、併願を制限する受験の方法がある。

b 出願

- ・ 出願期間は、1月12日(金)から各校が指定した期日まで。
- ・ 検定料や支払い方法は、各私立高等学校で異なる。

c 入学試験

- ・ 各私立高等学校が独自に定めるが、1月23日(火)・24日(水)・25日(木)の実施が多い。(1月23日(火)・24日(水)・25日(木)は、専修学校の一般入試日と同日)

d 選考方法

- ・ 入学試験の方法は学校ごとに異なる。

e 合格発表・入学手続き

- ・ 合格発表は1月26日(金)～1月29日(月)に行われる。
- ・ 入学手続きは、指定された期日までに納付金(一時金)を納めることから始まる。

☆ c～eに関しては、学校ごとに異なるため、募集要項で確認する必要がある。

④その他の方法での入学

- ・ 帰国生入試等がある。

☆ 学校ごとに特色のある入試制度があるので、募集要項で確認する必要がある。

(3) インターネット出願について

インターネット出願の形式は学校ごとに異なるが、基本的な流れはどの学校もほぼ同じである。大まかな流れは次の通りだが、必ず各学校のインターネット出願の方法を確認すること。

- ① マイページ登録等で、出願者の情報を入力する。
- ② 出願情報を入力する。
- ③ 中学校に、申込内容確認書をプリントアウトしたものを提出する。

(注意) 中学校が申込内容を確認するまでは、入金手続きを絶対にしない。一度入金をしてしまうと、間違っていた際の修正ができなくなる。入金開始のタイミングは中学校から知らせる。

- ④ 中学校の確認が済んだら、再度、出願ページから入金手続きをする。
- ⑤ 願書をプリントアウトして中学校に提出をする。

(③、⑤は必要のない学校もある。)

5 公立（県立・市立）高等学校（全日制）を希望する場合
☆ 合格したら進学することが確定している学校を受検すること。

(1) 募集

- ・ すべての公立高等学校で、推薦選抜と一般選抜による募集がある。
- ・ すべての公立高等学校で、推薦選抜の割合が次のように決まっている。
普通科・・・・・・・・・・募集人員の10%～15%程度
総合学科・専門学科・・・募集人員の30%～45%程度
(一般選抜は、募集人員から推薦する人数を引いた人数が募集される。)
- ・ 一部の公立高等学校で、特色選抜による募集がある
- ・ 専修学校・私立高等学校・国立学校の推薦受験での合格者、私立高等学校の特色選抜での合格者生徒は受検できません。

(2) 選抜方法

① 推薦選抜

a 校内審査

- ・ 12月 5日（火）推薦依頼書配付開始（個人懇談会で配付）
- ・ 1月15日（月）推薦依頼書提出〆切
- ・ 1月22日（月）推薦委員会（出願資格審査、校長推薦）
- ・ 3学期の公立相談会（公立受検者対象）〔1月24日（水）～26日（金）〕で推薦委員会の結果を伝える。

b 出願

- ・ 推薦出願資格（推薦条件）は、次の通りである。

<推薦条件>

- ①第1志望であること。合格したら必ずその学校に入学すること。
- ②本人からの申し出があること。
- ③生徒と保護者ともに、その学校への入学を強く希望していること。
- ④3年間やり抜く強い意志と資質が認められること。
- ⑤当該学科を志望する動機、理由が明白、適切であること。
- ⑥当該学科に対する適性及び興味、関心を有すること。
- ⑦長久手中学校のきまりがきちんと守れていること。
- ⑧校内での手続を経た上で、学校長が推薦を認めること。
- ⑨入学後にその学校の授業についていける学力を備えていること。
- ①～⑨以外に各校で出される「推薦選抜実施要項」の推薦基準の㉞～㉟のいずれかに当てはまること。

- ㉞ 運動・文化・芸術・奉仕活動等の諸活動のいずれかにおいて優れた能力・適正及び実績等を有する者。
- ㉟ 恵まれない環境を克服し、向学心に富み、生活態度が他の模範となる者。
(詳細は【資料1】参照)
- ㊱ 調査書の学習の記録が優秀で、学習活動において他の模範となる者。
- ㊲ 将来、農業又は水産業に関する職業に就く、若しくはその後継者となる意志を有する者(農業又は水産に関する学科の志願者のみ)

- ・ ㉞については、各学校のホームページに「推薦選抜実施要項」の「推薦基準」が示される。【資料7】は愛知県立瀬戸西高等学校の例。
- ・ 出願期間は、1月25日(木)～2月1日(木)15時まで
- ・ 検定料は2,200円。
(納入方法は、クレジット決済・pay-easy決済・コンビニ決済)
- c 入学検査
 - ・ 2月6日(火)、7日(水)に実施する。
- d 選抜方法
 - ・ 中学校が作成する推薦情報・調査書情報等、その他出願時に登録された情報及び面接による。
 - ・ 推薦情報には、推薦の理由、第2学年の学習成績等が記載される。
 - ・ 調査書情報には、第3学年2学期の学習成績、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録、総合所見及び指導上参考となる諸事項、出欠の記録、特記事項が記載される。
 - ・ 面接はすべての学校で行われる。
 - ・ 特別検査が行われる学校がある【資料2】
- e 合格発表とその後
 - ・ 合格発表は、2月8日(木)12時(正午)に、各高等学校に掲示され、Webで発表となる。(高等学校での掲示は今年度限り)
Web出願システムでも発表される。
 - ・ 入学手続きは、各校の定める日時に行われる。
 - ・ 推薦選抜で不合格であった場合、速やかに一般選抜の出願準備を始める。

②特色選抜

a 受検校決定

- ・ 3学期の公立相談会〔1月24日（水）、25日（木）、26日（金）〕で受検校を決定する。
- ・ 第1志望であり、合格したら必ずその学校に入学すること。
- ・ 特色選抜実施要項を十分に理解したうえで、受験校を決定する。
- ・ 1校1学科のみ出願することができる。

b 出願

- ・ 出願期間は、1月25日（木）～2月1日（木）15：00まで
- ・ 出願時に志望理由をWebシステム上に登録する必要がある。
- ・ 検定料は2,200円。

（納入方法は、クレジット決済・pay-easy決済・コンビニ決済）

c 入学検査

- ・ 検査日は2月6日（火）（推薦選抜と同日）
- ・ 面接は必須として、そのほかに、作文、基礎学力検査、プレゼンテーション、特別検査（実技試験）のいずれかが実施される【資料5】

d 選抜方法

- ・ 中学校が作成する調査書情報等、その他出願時に登録された情報及び面接等による。
- ・ 調査書情報には、第3学年2学期の学習成績、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録、総合所見及び指導上参考となる諸事項、出欠の記録、特記事項が記載される。
- ・ 詳しい検査内容については、各学校のホームページにある特色選抜実施要項を参照すること。【資料8】は愛知県立瀬戸西高等学校の例。

e 合格発表とその後

- ・ 合格発表は、2月8日（木）12時（正午）に、各高等学校に掲示され、Webで発表となる。（高等学校での掲示は今年度限り）
Web出願システムでも発表される。
- ・ 入学手続きは、各校の定める日時に行われる。
- ・ 特色選抜で不合格であった場合、速やかに一般選抜の出願準備を始める。

③一般選抜

a 受検校決定

- ・ 3学期の個人懇談会〔1月24日（水）、25日（木）、26日（金）〕で受検校を決定する。
- ・ 1校1学科または2校2学科に出願することができる。
（専修・私立高校の合否結果をもとに受検校を決定する。）
- ・ 2校2学科に出願する場合は、一方を第1志望とし、他方を第2志望とする。（推薦・特色選抜受検者は、推薦・特色受検校を第1志望校とし、他校を第2志望として出願することができる。）
- ・ A・Bグループのいずれか一方、または双方の高等学校へ出願することができる。ただし、異なった群に属する普通科の2校へ出願することはできない。（群・グループ分けの詳細は、【資料4】参照。）

b 出願

- ・ 出願期間は、2月6日（火）～2月14日（水）15：00まで
- ・ 検定料は2,200円。
※ 1校出願でも、2校出願でも、2,200円。
（納入方法は、クレジット決済・pay-easy決済・コンビニ決済）

c 入学検査

- ・ 学力検査日は、2月22日（木）
- ・ 面接検査日は、Aグループが2月26日（月）、Bグループが2月27日（火）

d 選抜方法

- ・ 中学校が作成する調査書情報の評定得点と学力検査の得点をもとに各学校で校内順位を決定する。
に判断する。【資料6】
- ・ 面接のある学校もある。【資料6】
- ・ 特別検査を実施する学校がある。【資料3】
- ・ 特別検査日は、Aグループが2月26日（月）、Bグループが2月27日（火）

e 合否の手順

- ① 当日の学力検査（110点満点）と、調査書情報の学習の記録の評定合計（45点満点）を2倍した数値（90点満点）による分布表を作成する。

＜専門学科で傾斜配点のある科の例＞

（学力検査・・・国際英語科・国際教養科・国際探究科・全日制単位制高等学校→外国語（英語）が1.2倍

全日制単位制高等学校→得点の高い3教科を2倍）

（評定・・・スポーツ科学科→保健体育が1.5倍、

音楽科→音楽が1.5倍

美術科→美術が1.5倍

国際英語科及び国際教養科・国際探究科→外国語が1.5倍）

- ② 順位決定については、各高等学校があらかじめ選択した次のⅠ～Ⅴのいずれかの方式によって得られた数値を基礎資料とした上で、総合的に行う。（各学校の選択の詳細は、【資料6】参照）

Ⅰ（評定得点）＋（学力検査合計得点）

Ⅱ {(評定得点) × 1.5} + (学力検査合計得点)

Ⅲ（評定得点）＋{(学力検査合計得点) × 1.5}

Ⅳ {(評定得点) × 2} + (学力検査合計得点)

Ⅴ（評定得点）＋{(学力検査合計得点) × 2}

- ③ 第1志望校、第2志望校ともに合格圏内にあるときは、第1志望校を合格校とする。この結果、欠員の生じた場合は、当該校を志望校とした受検者の中から、繰り上げて合格者を決定する。
- ④ 第1志望校、第2志望校で合格判定の方法に違いはない。

f 合格発表・入学手続き

- ・ 合格発表は、3月8日（金）午前10時に各高等学校に掲示され、Webで発表となる。（高等学校での掲示は今年度限り）
- ・ 入学手続きは、各校の定める日時に行われる。
- ・ 3月11日（月）までに合格辞退者が確定するので、補欠合格のある場合がある。その場合は、3月11日（月）午後1時30分以降に、高等学校長から、長久手中学校長に連絡がある。補欠合格を受け入れるかどうかの意思確認を即答しなければならないので、不合格者は必ず連絡が取れるようにしておく。

g 第2次選抜

- ・ 定員に満たない学校・学科では第2次選抜を実施する。
- ・ 第2次選抜の出願資格は、県内のいずれかの私立・公立・国立高等学校を志願かつ受験（受検）し、どこにも合格しなかった者。

④その他の方法での入学

- ・ 海外帰国生徒選抜、外国人生徒選抜等がある。

6 国立学校を希望する場合

☆ 合格した場合は、必ずその学校に進学することを前提として受検してください。

- ・ 愛知県内の国立学校は次の3つである。(【資料11】参照)
豊田工業高等専門学校(修業年限5年)
名古屋大学教育学部附属高等学校
愛知教育大学附属高等学校
- ・ 国立希望者でまだ学級担任に伝えていない場合、早急に学級担任に伝える。

7 愛知県外の学校を受験する場合

☆ 保護者の勤務先の変更・転居等にともない、愛知県外の高等学校等を受験する場合は、いろいろな手続きが必要なため、分かり次第学級担任まで伝えてください。

(県によっては、愛知県の場合より様々な期日が早い場合がある。)

- ・ 原則として、入学願書等の出願に必要な各種書類は、保護者が取り寄せることになる。

8 その他の学校を受験する場合

☆ 次の学校を受験する場合は、出願方法や期日等、学級担任と相談して決めていく。

- ・ 定時制課程 【資料9】参照
(公立) 前期選抜 出願 1月29日(月)～2月5日(月)
入学検査 2月9日(金)
後期選抜 出願 3月5日(火)～12日(火)
入学検査 3月14日(木)
- ・ 通信制課程 【資料9】参照
(公立) 前期選抜 出願 1月15日(月)～22日(月)
入学検査 1月28日(日)
後期選抜 出願 3月11日(月)～18日(月)
入学検査 3月21日(木)
- ・ 特別支援学校高等部や通信制高校・通信制サポート校など個別に対応

9 その他

(1) 辞退・変更について

- ・ 進路相談や事前の情報収集を十分行い、辞退・変更も行わないようにすることが賢明である。万一、辞退・変更を考える場合はご家庭でよく話し合い、決定後、ただちに中学校に連絡し、指示を受ける。

公立高等学校は、定員数ちょうどで合格者を決定するため、辞退者が出ると欠員が生じる場合もある。

※第2次選抜の人数には、合格辞退者の数は含まれない。

※辞退者の人数に応じ補欠合格者を決定するが、この場合該当校を受検し不合格となった者のうち、どこの公立高校にも合格していない成績上位者から順に選ばれる。つまり、該当校を第1志望として受検したが不合格となり第2志望校に合格した者は、成績上位であっても該当校への合格とはならない。

(2) 受験（受検）上の配慮について

- ・ 病気・事故・障害等で、受験当日に配慮が必要な場合は、中学校に事前に伝える。（10月中旬までに提出された「氏名・住所・表彰等についての確認」のプリントを基に、進路相談会や個人懇談会等で相談をしていく。）
- ・ 公立高校は、出願期間に Web システムによって受検配慮申請を登録する。

(2) 遅刻・追検査等について

- ・ 試験当日や試験中に、やむを得ない理由で受験ができなくなった場合は、自宅を出る前ならば中学校へ、それ以後は状況に応じて、中学校、もしくは、受験先へ連絡し、指示を受ける。
- ・ 公立高等学校は、急病または交通事故等やむを得ない理由であると認められた場合は、追検査を受検することができる。
- ・ 公立高等学校は、急病または交通事故等やむを得ない理由で遅刻したと認められた場合は、特別な対応にて受検することができる。

（公立高等学校の配慮事項の具体的内容については【資料1.0】参照）

- ・ 公立高等学校の追検査を希望する場合は Web システムによって「追検査受検申請」を行う。

(3) 長期欠席者における受験（受検）について

- ・ 長期欠席者における特別な受験（受検）を設けている学校がある。この受験（受検）を受けたい場合は、学級担任と相談し、進めていく。

（公立高等学校は、長期欠席者等にかかる選抜方法がある。また、第2学年、もしくは、第3学年の欠席が年間30日程度以上の場合は Web システムによって自己申告することができる。）

(4) 各種奨学金について

- ・ 専修学校・私立高等学校の中には、様々な奨学金（名称も様々）がある。そのほとんどは、入学金や授業料等を納付した後、後日に還付される形式である。そのため、入学前にお金を一旦振り込む必要がある。

(5) 新型コロナウイルス感染症への対応

- ・ 私立・専修・国立高等学校は学校ごとに異なるので、各学校の募集要項等を参考にする。また、公立高等学校については、今年度の入試から新型コロナウイルス感染症による追検査は実施しないことになった。

10 最後に

(1) 「いかに合格するか」だけでなく、「合格後にどう過ごすか」を大切にする。

- ・ どうしても「どこの学校に進学するか」「どんな職業に就くか」が頭によぎるが、「進学（就職）後、どう有意義な人生を過ごすか」を大切にしていくなことが重要である。

(2) 正確な情報を大切にする。

- ・ 「〇〇学校は・・・」「□□会社は・・・」というような話題になるが、その情報の真偽を確かめる。

(3) 客観的な意見を大切にする。

- ・ 生徒を客観的に捉えられる人の意見を大切にしていくな。
- ・ 学級担任をはじめ、学年担当教師は、様々な情報交換を行い、客観的なアドバイスをを行うことに努めている。生徒と保護者は、十分に納得いくまで、学級担任をはじめとした学年担当教師との話し合いを大切にすることが望ましい。

(4) 最終決定は保護者と生徒と行う。

- ・ 進路の選択の最終決定者は、保護者であり生徒である。

(5) 進路関係の提出書類、Web 出願などは提出期限を厳守する。

- ・ 提出期限に遅れてしまうと、相手側に受理してもらえない。中学校で指定した期日を厳守する。

（受験（受検）先から示される期日と、中学校が示す期日とは異なる。中学校では、提出物の各種内容を確認するために早めに設定される。）Web 出願も同様。

(6) 進路関係の書類は複数の目で確認する。

- ・ 生徒が作成するが、保護者も中学校も確認することで、誤りを防ぐ。